

ICT を活用したセルフエスティームの育成

大町町立大町小学校(佐賀県) 古川美樹(ふるかわよしき)

1 校内の環境整備は一步も引かない覚悟で!

赴任した3年前・・・コンピュータ室が整備された2年目。職員室にはワープロが載っていた。

現在・・・全ての教室に情報コンセント+児童用PC1台、各学年に教師用ノートPC・プロジェクタ各1台(計9台)、無線LANアクセスポイント4基、サーバ3台等々、佐賀県内ではトップクラスの整備率。

2 実のある取り組みのための体制作り。コンピュータや校内LANを本当の意味で学習に役立てよう。

①先生方の意識改革。

学校の実態を知った上で、プロ意識を持って授業改善に取り組む。小集団での発想を大切に、アイデアを出すことをお願いした。改善しようという意識を大切にする。

②授業設計をする際のめあてを明確にする。→セルフエスティームの育成を目指す。

※セルフエスティーム・・・日本人に欠けている「健全なる自尊心」・・・「生きる力」

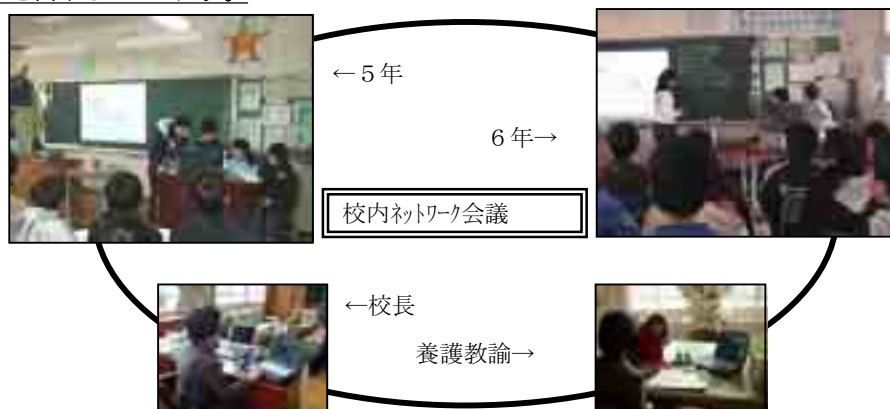
③コンピュータで、全てができるはずがない。セルフエスティームの二本柱の内、主に「**自己有能感**」の育成を目指すことにした。

3 コンピュータや校内LANとセルフエスティームの育成をどうつなげていくか。

自己有能感や自己尊重感の育成のために、できる自分を自覚することが大切。そのための方法として・・・

①ビデオクリップの活用・・・前時の想起で利用(暗黙知をできるだけ同レベルに)、技能教科で利用(自己の技能を客観的にとらえる)、自己表現での利用(伝えたいことが正しく伝わる)

②校内LANの活用・・・グループウェアの利用(表現の場としての掲示板・メールにより認め合い励まし合う)、校内ネットワーク会議の利用(児童どうしの情報交換で知恵の共有化+全ての教員が関わり支えあう)・・・もっと校内に目を向けることが大切。



ICTの活用がセルフエスティームの育成のために有効かどうかを考えるとというプロセスを授業設計の時に入れることが大切。

4 教師・児童のリテラシーをどのように高めていくか。

①「教師はプロ意識を持ち、教育的に機械から逃げてはならない」が原則。しかし、支えていく校内の支援体制づくりも大切。

②児童は型にはめない。できることをさせてみる。

5 最後に「立つな、しゃべるな、整えよ」・・・座右の銘